妖霊星 二

近藤ようこ

兄姫(えひめ)が
かわいいか
弟姫(おとひめ)が
かわいいか

カタ
姫さま

親御さまがお呼びですよ

もうすぐ
この姫の
命日だな
早い
ものですね

この子が
生きていたら
もう孫の
二、三人も
いたろうに
はい

ほんとうに
かわいらしい
姫さま
でしたこと
カラ

そうだ
かわいらしく
利発だった
ほほほ
あなたは
片時も
あの子を
離しません
でしたね

あの子が生きていたらどんなによかったろう
聟をとってわしも隠居している頃だ
ええほんとうにあの子さえ生きていたら――

父上も母上も死んだ姉上のことばかり!

わたしが
生まれる
前に
死んだ
兄姫の
ことばかり
乙や
乙姫

これが
おまえの
姉上…

色が白くて
髪が
たっぷりと
して…
おまえの
年には
古今集を
そらんじて…

これは
あの子の
形身の
小袖…

かわいい盛りに
亡くして
しまった…

ああ……

いない

バサ!

姫さま いけません!

これがあるから
わたしがいない
わたしがいない！
いらっしゃい
ます！
ここに！

でも
わたしには
見えない
わたしには
わからない

！

月小夜…
あの者に
会いたい…
は?

わたしに
似ていると
いう…
あの…
田楽能の
児で
ございますね

月小夜に
おまかせ
くださいませ

田楽?

がやがや

陰山長者が田楽を催されるぞ

がやがや

さすが長者は豪勢なことをなさるよ

見にいこう 見にいこう

コト…
姫さま…
連れてまいりましたよ
ああ…おまえ…

わたしを
覚えて
いるか？
天王寺に
いた
おかしな
娘だ

おまえに
会いたかった

なぜ

おまえを
見ていると
自分に
会っている
ようで
うれしい

鏡の中の
わたしには
触われない
けれど
おまえには
触われる
おまえは
ほんとうに
いるのだ
もの

なにを
戯言を
俺は
おまえ
じゃないぞ

では
わたしは
何者
だろう?

自分が
何者かなんて
知らないほうが
仕合わせだ

なぜ?

自分が
何者か
わからないと
自分が
いるのか
いないのか
わからない
……

いなくても
いいんだ
自分なんて
俺は
自分を
消して
しまいたい

おまえは
何者?

有若
!

有若!
どこだ
もうすぐ
出番だぞ

名は
有若と?

違う
ほんとうの
名は——

つづく